



Deutsche Messe



2026年2月3日

合同会社International Linkage
ドイツメッセ日本代表

世界の製造業をリードする産業見本市 「HANNOVER MESSE 2026」

テーマ構成の刷新や、会場案内を最適化

「Automation & Digitalization (自動化とデジタル化)」を中心とした展示構成

／「防衛生産エリア」が新たな見どころに

■「自動化」と「デジタル化」を中心とした展示構成

2026年4月に開催予定の「ハノーバーメッセ 2026」は、テーマ構成の刷新や、会場案内の最適化、新たな交流プログラムの導入などに取り組みます。「Automation & Digitalization (自動化とデジタル化)」に焦点を当てた、世界各地から集結した出展企業が、製造業向けのイノベーションやソリューションを紹介します。今回は、欧州の安全保障・防衛産業の強化を目的に、未来志向の展示形態として設けられた「防衛生産エリア」が、新たな見どころのひとつとなっています。

人工知能（AI）は、ドイツと欧州の競争力を左右する重要な技術です。製造業にAIを適用することにより、企業のプロセスとビジネスモデルを根本的に変化させ、競争力のある効率的かつインテリジェントな生産を可能にします。今回のハノーバーメッセでは、AIが各ホール共通のテーマとして取り上げられ、ほぼすべてのブースで中心的な役割を果たします。AWS、マイクロソフト、SAP、シュナイダーエレクトリック、シーメンスといったテック企業に加え、ベッコフオートメーション、フェスト、ハイウィン、IBG、ifmエレクトロニクス、ハーディング、ラップ、ペッパー+フックス、フェニックス・コンタクト、ピルツ、リタール、シェフラー、SEWユーロドライブ、ヴィッテンシュタインなど、技術的に先進的な中小企業も、革新的な開発品や実用的なソリューションを披露します。

「Automation & Digitalization (自動化とデジタル化)」は、会場内の配置としても展示内容としても、より密接に関連しています。産業界では、AI制御ロボットからデータ駆動型の生産最適化、さらにはデジタル化されたサプライチェーンまで、ソフトウェアとハードウェアの融合が進んでいます。ハノーバーメッセは、この明確なトレンドを反映した展示会です。「今回、工場ではかなり前から実現されていることを、目に見える形にするため、ホール構成を刷新しました」と、ドイツメッセ グローバルダイレクター トレードフェア アンド プロダクトマネジメント ハノーバーメッセのフーベルトウス・フォン・モンシャウ（Hubertus von Monschaw, Global Director Trade Fair and Product Management HANNOVER MESSE at Deutsche Messe AG）

は述べています。

自動化の分野には、センサー技術、産業用通信、組込みソリューション、電気駆動技術、モーションコントロールなどが含まれます。これらの中核分野は、現代のインダストリー4.0ソリューションを支える基盤となっています。また、防衛産業の生産技術に関するトピックも新たに加わりました。

■【新規展示エリア】 防衛生産エリア

安全保障や防衛産業においても、最新の生産技術が求められています。こうした分野では、防衛能力の再評価に伴って投資が増大するとともに、工業生産における高い拡張性、柔軟性、信頼性が求められています。「防衛生産エリア」は、欧州の安全保障・防衛産業の強化を目的としてハノーバーメッセに新設された展示エリアです。その主役は、防衛や安全保障、レジリエンス分野向けに革新的な生産技術ソリューションを提供するサプライヤーや事業者です。防衛・安全保障分野のイベントである「DSEI Germany」の協力のもと、ハノーバーメッセは今回初めて、安全保障関連の生産に求められる厳格な要件を満足できる最新技術を紹介する魅力的なプラットフォームとして、同エリアを設置しました。

■産業向けロボット工学の応用

ハノーバーメッセでは、ロボット工学の最新トレンドを体験することができます。この分野では、AI活用型認知システム、自律移動型マニピュレーター、人型ロボットなどを中心に展示を行います。古典的な産業用ロボットと比較した場合の利点として、性能そのものより、その適応力の高さが挙げられます。人間が開発した工具や作業環境、インフラを利用できるように設計されています。そのため、生産環境全体を再構築せずに、プロセスを自動化したり、確立された手順や製品に変更を加えたりすることができます。自動車や電子機器の製造など、従来からある自動化分野では、精度、速度、可搬重量、信頼性を改善した特殊な産業用ロボットが、今後しばらくは主役の座を維持し続けるでしょう。ロボット工学の分野では、ソフトウェア面でも多くの進展が期待されています。データ駆動型の手法によるデジタルツインの高度化に加え、生産を中断することなく、より迅速にロボットのプログラミングやティーチング（教育）を行う手段として、シミュレーションやバーチャルコミッショニング（仮想環境での動作検証）などがますます注目を集めています。

■産業用ソフトウェア：生産をデジタルで支える原動力

ハノーバーメッセは、将来的な需要にも対応可能な効率的なネットワーク生産において、最新の産業用ソフトウェアが根幹をなすことを改めて提示します。産業用ソフトウェアは、製品開発から生産およびメンテナンスにわたり、機械や人、プロセスをインテリジェントな全体システムとして統合します。

最新の産業用ソフトウェアは、生産計画、プラント制御、データ分析、デジタルツインなどの分野にかかわらず、産業プロセスの最適化において重要な役割を果たします。また、企業が資源を効

率的に利用し、変化に柔軟に対応し、自社の競争力を強化するのにも役立ちます。さらには、AIやエッジコンピューティング、産業IoT/IIoTといった主要技術と組み合わせることで、効率性、持続可能性、イノベーションにおける新たな可能性を切り開きます。ソフトウェアは、ますます戦略的な差別化要因になりつつあります。データをリアルタイムで活用し、生産を柔軟に制御できる企業だけが、急速に変化する市場でその地位を確立することができるでしょう。出展企業には、SAP、PSI、Inform、soffico、cybus、Aegis、マイクロソフトなどが名を連ねます。

■産業界にとってのデジタル・レジリエンス

来年のハノーバーメッセでは、これまで以上にITやOT（運用技術）のセキュリティに注目することになるでしょう。デジタル化とネットワーク化が進む産業界において、サイバーセキュリティは競争力と革新力の基本的な前提条件であると言えます。ハノーバーメッセでは、セキュリティソリューションの主要プロバイダー各社が、産業インフラを保護するための最新の技術と戦略を紹介します。来場者は、安全なクラウドソリューション、生産現場向けのOTセキュリティ、ゼロトラスト・アーキテクチャ、AIを活用した脅威分析といったさまざまなテーマを通じて、最新の動向や課題について実践的な知見を得ることができます。

■5Gと産業用無線

接続性は、産業のデジタル化と持続可能な変革に不可欠な要素です。ハノーバーメッセでは、欧州最大規模の産業用無線通信プラットフォームとして、「5Gと産業用無線アリーナ」を設置します。同アリーナでは、5G、6G、NB-IoTといった主要技術に焦点が当てられます。ロボット工学やIT/OTセキュリティ、防衛・安全保障・レジリエンス分野の生産技術と近接した[A2.1]展示構成により、来場者はより高い価値を実感するとともに、自律システムからインテリジェントネットワークまでを含む、ネットワーク化された通信の将来像を知ることができるでしょう。シーメンス、ファーウェイ、エリクソン、InterXなどが出展する予定です。

【本件に関するお問い合わせ先】

合同会社 International Linkage ドイツメッセ日本代表：竹生
東京都世田谷区玉川 3-20-2 マノア玉川第 3 ビル 501
TEL：080-1396-9902、または 03-6403-5817